

# 「学びの変革」チェックシート

子どもたちがどのように学んでいるのかを見つめ直すことから、「学びの変革」をスタートしてみませんか？

このチェックシートは、子どもたち（※対象：小学校中学年～高校生）が回答することを想定して作成してあります。一定期間を挟んで複数回チェックシートを実施してください。

1. まったく当てはまらない 2. あまり当てはまらない 3. どちらとも言えない 4. やや当てはまる 5. とても当てはまる

番号	項目	チェック
<b>「協働的な学び」実践力</b>		
1	友達が一生懸命に取り組んで、うまくいかなかったときは、許すことができます。	1 2 3 4 5
2	自分の考えを、誰かに伝えるときは、わかりやすく話すようにしています。	1 2 3 4 5
3	一人で解けない問題でも、誰かと協力すれば、解決できると思います。	1 2 3 4 5
<b>「協働的な学び」調整力</b>		
4	学習がうまく進まなくなったとき、自分の考え方を振り返って、どこに問題があったのか、考えます。	1 2 3 4 5
5	グループで学習するとき、友達の考えや気持ちをわかってあげられます。	1 2 3 4 5
6	問題が難しくわからないとき、自分がどんな気持ちになりやすいか知っています。	1 2 3 4 5
<b>「探究的な学び」推進力</b>		
7	見たり聞いたりしたことから、ぱっと自分の疑問や質問を思い付くことがあります。	1 2 3 4 5
8	自分で思い付いた疑問や質問の答えを考えるのが、好きです。	1 2 3 4 5
9	問題を考えている途中で、違う疑問や質問を、よく思い付きます。	1 2 3 4 5
<b>「探究的な学び」適応力</b>		
10	失敗しても、問題を解決するまであきらめずに頑張りが続けます。	1 2 3 4 5
11	問題を解決するとき、答えや結果を予想してから、学習をスタートします。	1 2 3 4 5
※12	答えや解決の方法がうまく見付からないと、つい「自分にはムリだ...」と、思ってしまいます。	1 2 3 4 5
<b>「批判的に学び続ける力」 → 「個別最適化された学び」を支える力</b>		
13	考えの証拠や理由には、とても確かなものから、あまり確かでないものまであります。	1 2 3 4 5
14	「自分の考えが間違っているかも...」と思ったら、自分の考えを見直そうとします。	1 2 3 4 5
15	問題を解決するとき、答えや結果を予想してから、学習をスタートします。（「11」と同じ）	1 2 3 4 5

※〈注意〉 質問項目12は、逆転項目になっています。選択回答した数値を、次のように換算してください。

換算の仕方：「1」なら「5」へ、「2」なら「4」へ、「4」なら「2」へ、「5」なら「1」へ

〈「チェックシート」活用術〉 回答結果の活用例として、次のものが考えられます。

### 【先生方の授業改善のフィードバックとして】

- 平均比較で授業づくりの改善点を見つけるために。
  - 継続的に取り組んだ「学習指導のポイント」の効果や成果の測定に。
  - 日々の授業の工夫の成果を数値で確認するために。
- **「学びの変革」の推進状況の把握に活用を！**

### 【子どもたちの学習状況のアセスメントとして】

- 「学びの変革」チェックシートの合計点が極端に低い子どもたちのスクリーニングに。
  - 子どもたちの個人変容の測定に。
  - 「主体的に学習に取り組む態度」の自己評価に。
- **子どもたち一人一人の個別対応に活用を！**

他にも、活用の仕方は考えられます。ぜひ、先生方ご自身でカスタマイズしてご活用ください。

【問い合わせ】

☎ 電話番号：024-572-4182

福島県教育センター 調査研究チーム

✉ アドレス：center-chosa-gr@fcs.ed.jp



再生紙を使用しています

# みんなで「学び」のスイッチオン！

## 「学びの変革」ガイド

子どもたちと「共育」\*に challenge してみませんか？

「学びの変革」ガイドでは、「一方通行の画一的な授業から、**個別最適化された学び、協働的な学び、探究的な学び**へ」と「学びの変革」に挑戦し、子どもたちに必要な資質・能力の育成を目指す、福島県の先生方の後押しをするために、子どもたちの「**学び続ける力**」の発揮や高まりにつなげる授業づくりのポイントを紹介します。

### 本ガイドで「学び」とは

学習における体験や経験（「見方・考え方」を働かせる、既存の知識を活用する、何かを発見する etc.）を新たな知識と結び付けるプロセスとして捉えます。

目指すのは…

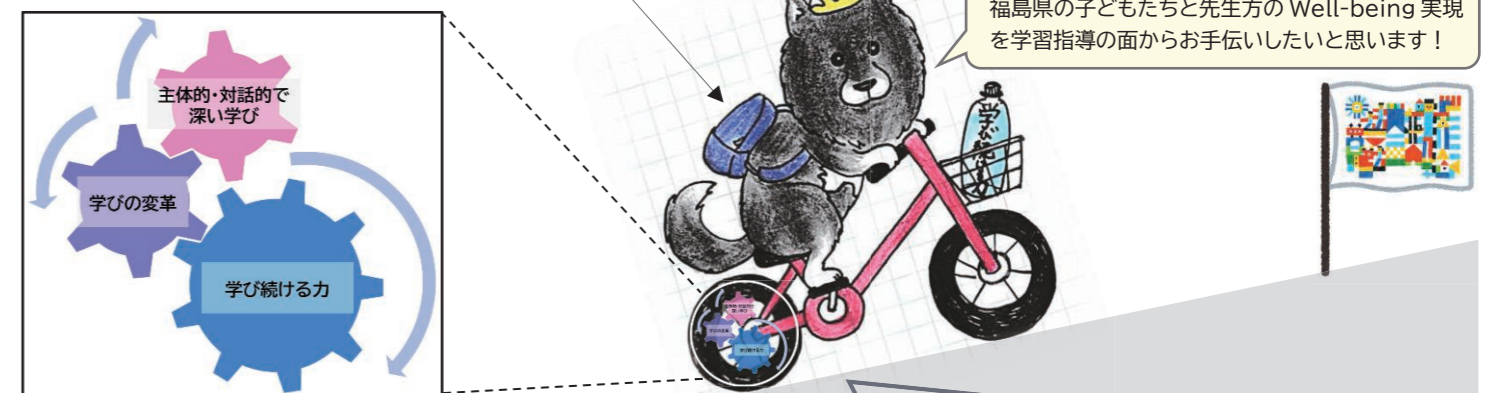
### 学び続ける力 (Capability of Continuous Learning)

学習負荷<sup>(※)</sup>のかかる状態・状況においても、問題の解決に向かって粘り強く取り組み、知識等の活用や仲間との協働、新たに問題を発見することのよさを学びの意味として見いだす力

### 「学びに自走する子ども」の姿

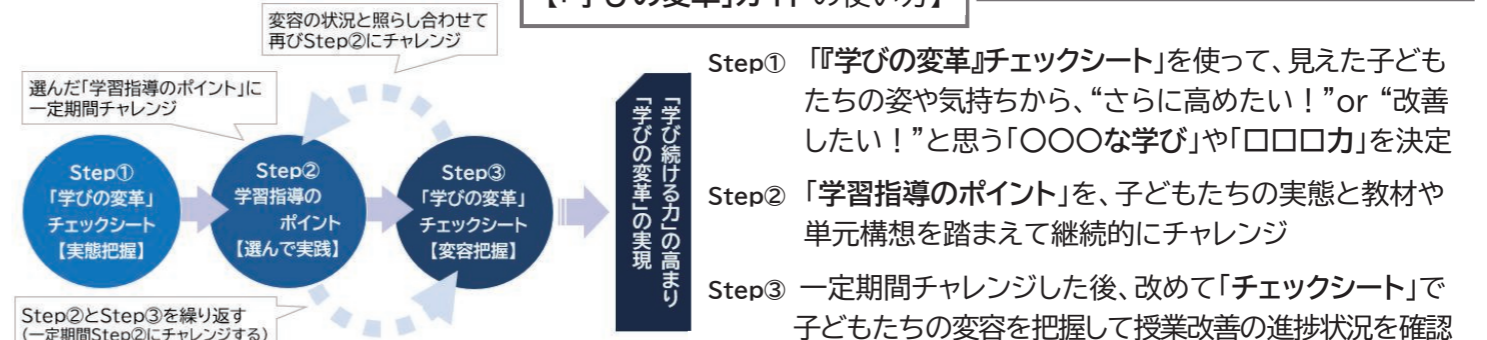
各教科の「見方・考え方」を働かせて問題を見だし、「**学び続ける力**」を発揮しながら、よりよい問題解決の仕方や学びの意味を追求し続けることができる子ども

※ 学習時における大小の試行錯誤、つまづき、悩みなど



子どもたちの「**学び続ける力**」を高めることで、「**学びの変革**」、「**主体的・対話的で深い学び**」の実現を促し、「**学びに自走する子ども**」の姿につなげます。

### 【「学びの変革」ガイドの使い方】



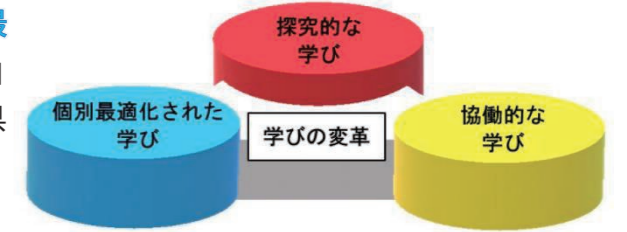
本ガイドは、令和5年度、令和6年度の福島県教育センター調査研究課題「**学び続ける力**」を高める学習指導の在り方の研究成果の一部を基に作成したものです。

福島県教育センター 研究紀要

検索



\* 「共育」は、芦田恵之助(1873-1951)の教育遺徳に遺された言葉「共に育ちましょう」を基に、吉田章宏(1934-)が造った言葉です。吉田章宏(2021)『教育の心理=多と一の交響=』一草書房より



「第7次福島県総合教育計画」概要版(リーフレット)より

## 「探究的」に学ぶ力 … 「探究的な学び」推進力 × 「探究的な学び」適応力

### 「探究的な学び」推進力

Step 1 「学びの変革」チェックシート【実態把握】  
Step 2 「学びの変革」チェックシート【実態把握】

関連するチェックシートの項目 番号7 番号8 番号9

自分で学習をスタートさせたり、次の学習につないだりする力を発揮できるようにするために…

学習指導のポイント **学びを基にした問いや学習課題づくり** **問いを立てるための考えの疑問形化** Step 2 学習指導のポイント【選んで実践】

**コンパクトな可視化**

子どもの言葉

「見方・考え方」  
「やってみよう！」

子どもたちの問いを整理していき、学習課題が見えてきます。

分かったこと・知ったこと  
気付いたこと・感想…

探究的な学び  
個別最適化された学び  
協働的な学び

★★★★★★Let's challenge!★★★★★★

子どもたちの「やりたい」「やるべき」「やれそう」を大切に!!

👉 **子どもたちの学びや言葉でつくる学習課題**

子どもたちと先生方が一緒に学習課題をつくることで、子どもたちの問いをつくる力を高められるようにします。

→ 解決後に子どもたちがつくれた学習課題のよさや改善点等を振り返る機会を設定して、子どもたちのよりよい問いへの感度を上げられるようにします。

★★★★★★Let's challenge!★★★★★★

疑問形(問い)にして答えを考えることを意識できるように!!

👉 **問うこと(問いをつくること)に慣れる**

子どもたちが問うことに慣れ、自分たちの問い(学習課題)で考えることのよさを実感できるようにします。

→ 自分たちの考えた問いや学習課題で**探究的な学び**をスタートさせることで、**個別最適化された学び**や**協働的な学び**がさらに促進するようにします。

【+ワンポイント】

学習の中で生まれる子どもたちの素朴な疑問や違和感を教室全体に広げて、みんなの大きな「？」にするのもいいですね!

〈手順〉発問例:「みんながやりたい/やる価値のある/やれそうな学習課題になっている/なっていたかな?」

- 1 学習の過程で子どもたちの学びや考え、思い等を可視化する。
- 2 キャッチした子どもたちのちょっとした「疑問・違和感」を、可視化した子どもたちの学びや言葉とつないで学習課題にする。
- 3 解決後、子どもたちと学習課題そのものを振り返る。

【+ワンポイント】

学習や単元の後半で、子どもたちと共に子どもたちの問いと答えの関係を振り返り、問いの特徴を子どもたちと共有できるといいですね!

〈手順〉発問例:「自分/友達への問いは、どのような問いと言えるかな?」

- 1 感じたことや考えたことなどに、疑問詞や「？」を付ける。
- 2 問いの形になっているか、近くの友達と確認し合う。
- 3 例えば、問いを共有して、学習課題をつくる。

### 「探究的な学び」適応力

Step 1 「学びの変革」チェックシート【実態把握】  
Step 2 「学びの変革」チェックシート【実態把握】

関連するチェックシートの項目 番号10 番号11 番号12

ゴールと照らし、手持ちの知識や情報を駆使して、手がかりを探り続ける力を発揮できるようにするために…

学習指導のポイント **問いや学習課題をつくるための基準の共有** Step 2 学習指導のポイント【選んで実践】

〈step1〉つくる

〈step2〉更新①

〈step3〉更新②

【問いを考えるための基準】

★★★★★★Let's challenge!★★★★★★

子どもたちの「わからない」から学びをスタート!!

👉 **「わからない」を明確化する基準で問いを生み出す**

基準をつくって使いながら更新していくことで、単元導入時の子どもたちが「わからない…」を乗り越える後押しをします。

→ 更新する際は、問いや学習課題の特徴を子どもたちと共に考えることで、「わからない」を明確化していきます。

「わからない」とはどういうことか、わからないことの中身について子どもたちと考えてみては?

【+ワンポイント】

子どもたちのよりよい問いへの感度を上げるために、つくった問いの中で一番大切な問いを考える場を設定するのもいいですね!

〈手順〉発問例:「わからなくなって学習がストップしたことはあるかな?」

- 1 「わからない」の中身を考える(あなたの「わからない」って何?)。
- 2 子どもたちの「わからない」を整理して、基準をつくる。
- 3 基準を使って「わからない」を見つけ、自分の問いをつくる。

## 「協働的」に学ぶ力 … 「協働的な学び」実践力 × 「協働的な学び」調整力

### 「協働的な学び」実践力

Step 1 「学びの変革」チェックシート【実態把握】  
Step 2 「学びの変革」チェックシート【実態把握】

関連するチェックシートの項目 番号1 番号2 番号3

友達とよりよく協働するために必要な判断力や態度を発揮できるようにするために…

学習指導のポイント **学びの段階的な可視化と共有** Step 2 学習指導のポイント【選んで実践】

**学びの可視化**

「どうしてそうしたの?」子どもたちの気持ちに問いかけながら!

【+ワンポイント】

可視化した学びを何度か使う場面を設定して使える実感と範囲を共有することで、可視化した学びを使おうとする子どもたちの意識を高めることができるといいですね!

〈手順〉発問例:「どれを使ったのかな?どこに着目したのかな?何のために使ったのかな?」

- 1 可視化した学びを明確にし、引き出すための工夫を考える。
- 2 子どもたちと一緒に、子どもたちの言葉で学びを可視化する。
- 3 共有の際、子どもたちが式や図などのどの部分で可視化した学びを使ったかを指し示しながら説明できるようにする。

★★★★★★Let's challenge!★★★★★★

授業終末以外に小さなまとめや振り返りがあったらいい!!

👉 **学びの小刻みな可視化と共有**

働かせた「見方・考え方」や活用した知識等を可視化して、みんなが使える共通の言葉にしていきます。

→ 子どもたちが問題解決で自分に必要な学びを、いつでも取り出せるようにします。

学習を見通す段階では、あまり「指導」し過ぎないようにします。また、可視化した学びを繰り返し使いながら、使って感じたことや気づいたことを共有して、可視化した学びを更新していきます。

### 「協働的な学び」調整力

Step 1 「学びの変革」チェックシート【実態把握】  
Step 2 「学びの変革」チェックシート【実態把握】

関連するチェックシートの項目 番号4 番号5 番号6

友達とよりよく協働するために自他の考えや気持ちを見つめ、受け止める力を発揮できるようにするために…

学習指導のポイント **自分や友達にとっての「学びの一番」の共有** **学びを振り返るための基準づくりと共有** Step 2 学習指導のポイント【選んで実践】

協働的な学び

個別最適化された学び

学びを基に

使ってさらに整理

更新

子どもたちのこれまでの学習の体験や経験を基に、子どもたちの言葉で、子どもたちと共につくります。

★★★★★★Let's challenge!★★★★★★

子どもたちの直観や感情、価値観を大事に!!

👉 **「学びの一番」の自己決定と共有**

自己決定は、子どもたちが学びを自分事化する契機です。選んだ理由を互いに予想し合うことで、さらに学びが広がります(学びの確認や新たな学びとの出会い)。

→ 互いの学びを共有する場を設定することで、**個別最適化された学び**と**協働的な学び**の一体的充実につなげます。

★★★★★★Let's challenge!★★★★★★

子どもたちの言葉で学びのつながりが見える化!!

👉 **みんなで作った「基準」で振り返り**

互いの学びを基準に沿って確認し合う対話を通して、学びの意味の自覚や実感へつなげます。

→ 子どもたちが判断に迷ったときは、友達に意見を求めるように促すことで、**個別最適化された学び**と**協働的な学び**の一体的充実につなげます。

【+ワンポイント】

直観でもよいので自分で選ぶことを優先します。「丸で囲む」、「印を付ける」だけでも十分です。選んだ理由を互いに予想し合う対話場面を設定することで、子ども同士で学びの意味付けができるといいですね!

〈手順〉発問例:「あなたにとって一番大事だと思う学びはどれかな?」

- 1 可視化した学びの中から自分にとっての「学びの一番」を選ぶ。
- 2 互いの「学びの一番」と選んだ理由を共有し合う。
- 3 共有時の対話を基に自分の「学びの一番」を確定する。

【+ワンポイント】

基準は学び方の原石です。子どもたちと繰り返し使って磨いて、さらに使える学び方に更新できたらいいですね!

〈手順〉発問例:「自分の考えが変わるって、どうなることかな?」

- 1 子どもたちの言葉を基に基準をつくり出す(先生の考えを入れるのも可)。
- 2 振り返り等で、基準に照らして自分の考えをチェックします。
- 3 繰り返し使って、項目を整理(精選・付加)して更新していきます。

## 批判的に学び続ける力 → 「個別最適化された学び」を支える力

関連するチェックシートの項目 番号13 番号14 番号15

質問項目の内容がそのまま学習指導のヒントになっています。考え等をもつ、見直す機会を!!



「基礎的な探究」から「発展的な探究」へ!  
高等学校「総合的な探究の時間」  
「探究リーフレット」はこちらから!



「学びの変革」ガイド関連資料はこちらから!

教材の特徴や単元構想に合わせて、無理せず、適材適所、使えるところで組み合わせるのも効果的